

安全データシート

改訂日: 2022年9月9日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

2-エチルヘキシルアルコール
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
AB0024

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性

環境に対する有害性
ラベル要素
絵表示又はシンボル

引火性液体: 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分2A
生殖毒性: 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分2(呼吸器)、区分3(麻酔作用)
水生環境有害性 短期(急性): 区分2



注意喚起語
危険有害性情報

警告
可燃性液体
皮膚刺激
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
含有量
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
その他

化学物質
2-エチルヘキシルアルコール
2-エチル-1-ヘキサノール, オクチルアルコール
 $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{CH}(\text{C}_2\text{H}_5)\text{CH}_2\text{OH}$
CAS RN: 104-76-7
95% 以上
(2)-217 / 公表
HSコード: 2905.16

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合	汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 直ちに医師の診断を受けること。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	吸入：咳、めまい、頭痛、咽頭痛、脱力感 皮膚：発赤 眼：発赤、痛み 経口摂取：「吸入」参照。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	該当情報なし。
特有の危険有害性	引火性の高い液体および蒸気。 消火後再び発火するおそれがある。
特有の消火方法	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境に放出しないこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 危険でなければ漏れを止める。 すべての着火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	消防法の規制に従う。
安全取扱注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 炎や高温のものから遠ざけること。 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 適切な個人用保護具を使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 10項に示す混触危険物質との接触を回避する。 取扱い後は手をよく洗うこと。
接触回避	
衛生対策	
保管	
安全な保管条件	消防法の規制に従う。 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。
容器包装材料	消防法で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	1ppm, 5.3mg/m ³
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色
臭い	バラを連想させる微芳香臭
融点/凝固点	-76°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	184-185 °C
燃焼性	可燃性液体
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	1.1-12.7 vol %
引火点	73 °C(密閉式)
自然発火温度	231°C
分解温度	該当情報なし

pH	pH=7 at 20°C
動粘性率(粘度)	10 mPa・s (20°C)
溶解度	水: 1.1 g/L (20°C)。有機: 多くの有機溶剤に溶解
n-オクタノール/水分配係数	LogPow=2.28
蒸気圧	0.136 mmHg (25 °C)
密度及び/又は相対密度	0.8344
相対ガス密度	4.49
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	強力な酸化剤と激しく反応する。
避けるべき条件	日光, 熱
混触危険物質	酸化剤, 強酸
危険有害な分解生成物	一酸化炭素, 二酸化炭素
11. 有害性情報	
急性毒性	経口: ラットのLD ₅₀ 値として、2,053 mg/kg、3,200 mg/kg、3,250mg/kg、3,730 mg/kg、3,200-6,400mg/kg、2,049-7,000 mg/kg (JECFA FAS32(1993)、DFGOT vol.20(2003)、PATTY(6th, 2012))の6件の報告があり、うち4件が該当する区分外(国連分類基準の区分5)とした。 経皮: ラットのLD ₅₀ 値として、> 2,000 mg/kg、> 3,000 mg/kg (DFGOT vol.20(2003))の報告、及びウサギのLD ₅₀ 値として、1,986 mg/kg、> 2,000 mg/kg、> 2,600 mg/kg (JECFA FAS32(1993)、DFGOT vol.20(2003)、PATTY(6th, 2012))の報告があり、最多該当数の区分外とした。JECFA FAS32(1993)のデータ及びPATTY(6th, 2012)のデータを追加し、区分を見直した。 吸入: データ不足のため分類できない。なお、ラットの蒸気吸入試験において、(蒸気) 0.89 mg/L(4時間) (DFGOT vol.20(2003)、IUCLID(2000))、及び飽和蒸気(0.953 mg/L)(8時間)(4時間換算値: 1.35 mg/L) (JECFA FAS32(1993)、PATTY(6th, 2012))で死亡例なしとの報告があるが、これらのデータのみではLC ₅₀ 値がどの区分に該当するかを特定できないため分類できない。なお、これらの値は、飽和蒸気圧濃度0.953 mg/Lの90%より高いため、ミストを含む蒸気としてmg/Lを単位とする基準値を適用した。 吸入: データ不足のため分類できない。なお、1.2 mg/L(6時間)(4時間換算値: (ミスト) 1.8 mg/L)で死亡例なしとの報告 (JECFA FAS32(1993)、DFGOT vol.20(2003)、PATTY(6th, 2012))、及び5.3 mg/L(エアロゾル/蒸気混合)(4時間)で全例死亡との報告 (DFGOT vol.20(2003)、IUCLID(2000))があるが、これらのデータのみではLC ₅₀ 値がどの区分に該当するかを特定できないので分類できない。なお、これらの値は、飽和蒸気圧濃度0.953 mg/Lより高いため、ミストとしてmg/Lを単位とする基準値を適用した。DFGOT vol.20(2003)には、ウサギの皮膚に無希釈の試験物質を4時間適用した試験(OECD TG 404)で、紅斑、浮腫及び癬痕形成を伴う重度の刺激性を示し、皮膚刺激指数は6.75/8.0との報告や、ウサギを用いた試験で20時間閉塞ばく露により、24時間後に軽度の紅斑と浮腫形成、8日後に顕著な落屑がみられたとの報告がある。以上の情報に基づき、区分2とした。 DFGOT vol.20(2003)には、ウサギの眼に無希釈の試験物質0.1 mLを適用した試験(OECD TG 405)で、角膜、虹彩及び結膜に中等度～重度の刺激性を示し、眼刺激指数は28.59/110との報告がある。またECETOC TR48(1998)には、無希釈の試験物質0.1 mLをウサギの眼の結膜嚢に適用した試験で、24時間に角膜混濁、虹彩炎、結膜の発赤と浮腫がみられ、眼刺激指数(MMAS)は51.3/110であり、7日～14日後に回復したとの報告がある。以上の情報に基づき区分2Aとした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器: データ不足のため分類できない。 皮膚: データ不足のため分類できない。なお、DFGOT vol.20(2003)には、ボランティア29人に対するKligman法(マキシマイゼーション法)による皮膚感受性試験で、感受性がみられた人がいなかったとの報告や、製造/加工工場の産業医学部門報告で本物質は皮膚感受性物質ではないとの記述がある。
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウスの優性致死試験で陰性、マウス骨髄細胞の小核試験、ラット骨髄細胞の染色体異常試験で陰性である(DFGOT vol.20(2003))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のhprt遺伝子突然変異試験、マウスリンフォーマ試験、染色体異常試験でいずれも陰性である(DFGOT vol.20(2003)、IUCLID(2000)、JECFA(1998)、NTP DB(Access on September 2013))。
発がん性	データ不足のため分類できない。本物質に関する国際機関の発がん性分類はない。なお、雌雄のラット、マウスを用い、ラットに2年間、マウスに18ヶ月間の経口投与発がん性試験(US-TSCAガイドライン)で、本物質は発がん性の証拠を示さないとの評価(JECFA FAS32(Access on September 2013)、DFGOT vol.20(2003)、IUCLID(2000))がある。また、吸入試験データはない。
生殖毒性	ラットの妊娠12日目に経口投与により、母動物の毒性についての報告はないが、水腎、尾の異常、四肢奇形などの奇形胎児の発生増加がみられ(DFGOT vol.20(2003))、また、ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験では、母動物に死亡、一般症状、摂餌量低下及び体重増加抑制がみられた用量で、吸収胚、着床後損失率の明らかな増加、腎盂拡張や水尿管症の胎児増加に加え、骨格奇形の増加を示し、本物質は母体及び胚・胎児に毒性を生じる用量でのみ催奇形性を有すると結論付けられている(DFGOT vol.20(2003))ことから、区分2とした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)	本物質は、ヒトの職業ばく露において頭痛、眩暈、疲労感、腸障害、軽度の血圧低下を起すと報告されている(PATTY(6th, 2012))。動物試験ではマウス、ラット、モルモットの単回吸入投与試験(1.8 mg/L/4時間、ミスト(6h, 227ppmばく露の換算))で、肺出血及び回復性の中枢神経抑制及び眼、鼻、喉及び呼吸経路の粘膜の刺激が認められた(JECFA FAS32(1993)、DFGOT vol.20(2003))との報告に基づき区分2(呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	DFGOT vol. 20(2003)、PATTY(6th, 2012)及びJECFA FAS 32(1996)の記述より、ラットの13週間及び2年間強制経口投与又は13週間混餌投与試験並びにマウスの18ヶ月間強制経口投与試験のいずれの試験においても、区分2までの用量範囲内で毒性影響はみられず、区分2を超える用量では肝臓(重量増加、ペルオキシゾーム増殖など)、腎臓(皮質変性)、前胃(上皮過形成)がみられた。一方、ラットに本物質蒸気を90日間吸入ばく露した試験では、最高濃度(120 ppm; 0.65 mg/L)まで毒性影響は認められなかったが、試験濃度が区分2の範囲をカバーしておらず、ガイダンス値上限での毒性影響の有無は不明であるため、分類に用いるには不十分なデータと判断された。また、分類に利用できる経皮ばく露のデータはない。以上、経口経路では区分外相当であるが、他の経路の毒性情報が不十分であり、全体としてデータ不足のため分類できないとした。データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: 魚類(ブルーギル)による96時間LC ₅₀ = 10 mg/L(AQUIRE, 2013)であること(急性)とから、区分2とした。 長期: 信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(慢性)(BOD分解度=99.9、79.0%(既存点検, 1977))、急性毒性は区分2であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogPow=2.28(IUCLID, 2000))ことから、区分外とした。
残留性・分解性	良分解性
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名(国連輸送名)	—
国連分類	—
副次危険性	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
—	—
応急措置指針番号	
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[2-エチル-1-ヘキサノール][施行令別表9] 危険性又は有害性を調査すべき物[2-エチル-1-ヘキサノール] 揮発性有機化合物 有害液体物質(Y類)
大気汚染防止法	
海洋汚染防止法	
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所HP) The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。